平成30年度広島大学法科大学院「外部評価委員会」 
 
広島大学大学院法務研究科 
 
日時 平成31年3月８日（金）午前11時～14時 
場所 広島大学東千田総合校舎1階 共用講義室 
出席者 外部評価委員 独立行政法人国民生活センター 理事長 松本 恒雄 
弁護士 椎木 タカ 
中国新聞社編集委員 西本 雅実 
法務研究科 研究科長 秋野 成人 
副研究科長 野田 和裕 
研究科長補佐 片木 晴彦 
教務委員長 田村 耕一 
学生修了生支援委員会委員長 周田 憲二 
公法・基礎法学講座主任 門田 孝 
評価委員会委員 田邊 誠 
評価委員会委員 日山 恵美 
東千田地区支援室長 宮脇 克也 
 
概要 
秋野法務研究科長から広島大学法科大学院の現況について報告した後，主に「資料１ 法
科大学院認証評価自己評価書」及び「資料３ 法科大学院公的支援見直し強化・加算プロ
グラムの評価結果について」に沿って外部評価委員の意見をいただき，意見交換を行った。
その概要は以下のとおり。 
 
 
○ 法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラムの基礎額算定評価で上位に位置付けら 
れたのは，平成 30 年度の司法試験の合格率が高かったからか。 
 
〔研究科〕平成 30 年度司法試験の合格率が 25％（特に未修者の合格率が 29.4％）に回復
したことが大きな要因である。 
 
○ 18 歳人口減少で，大学院再編にとどまらず学部再編は避けて通れないだろう。そのな
かで持続可能な法曹養成をめざし、入学定員の充足を図るのであれば、高校生のうちか
ら，ロースクールや法曹に触れるチャンスを広げる必要がある。それに加えて、３+２の
コースで司法試験合格の実績を築くことで，「広島大学に入れば司法試験に合格できる」

というイメージが世間に広がれば，保護者も広島大学への入学を押すであろう。 
 
〔研究科〕本学で開催されるロースクールキャラバンには，他地域よりも多くの中・高生
が参加している。また，３月に初めて広島で開催される高校生模擬裁判のイベントには，
本学教員を派遣するが，このイベントには，広島市内の私立高校 3 校の生徒が 100 人以上
かかわっていると聞いており，広島において中・高生の法曹への関心が高まっていると感
じている。本学としても，今後もこうした法曹関係のイベントに積極的に関わることで，
中・高生が法曹やロースクールに触れる機会を広げていく。 
 
○ 広島大学の理念を基本として，法曹倫理教育の充実に取り組んでいって欲しい。最近、 
法曹のトラブル・事件が多く報道されていることから、広島大学出身の法曹がそのよう
なトラブルを起こすことなく、倫理観が高いといったイメージにつなげていって欲しい。
そのために、現在から法曹倫理教育を徹底し地道に積み重ねていくことで、広大の伝統
となるように取り組んでほしい。 
 
〔研究科〕広島大学の理念を基本として，法曹倫理教育の充実に取り組みたい。 
 
○ 広島大学の理念に基づいて平和を希求する精神をもった法曹を養成するには、講義科目 
として開講することに加えて、紛争解決のために法的知識を使うということを学ばせる
さまざまな場で、1 つの紛争の解決を家庭や社会における安穏をもたらすという意識づけ
を行うことも重要ではないか。 
 
〔研究科〕広島大学の理念を実現する法曹養成教育を実現する教育上の工夫を果たしてい
く。 
 
○ 司法試験に合格した修了生をヒアリングし，在学中に感じた本学の教育で良かった点， 
不十分であった点等の情報を集め，改善に取り組んではどうか。 
 
〔研究科〕ヒアリングの実施について検討する。 
 
 
 秋野研究科長から，外部評価委員会は今年度を持って開催を終了し，今後は教育課程連 
携協議会を組織することについて説明があり，各委員のこれまでの貢献に対する謝辞が述 
べられた。 
 
以 上